

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370500565		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	熊本県水俣市塩浜町2-19		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成27年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム周辺は、静かな環境のもと、季節の花々に囲まれます。母体が病院であり、急変時の対応も泌尿病院・泌尿クリニックと連携が取れています。「家庭的な雰囲気なかで ゆったりと 楽しく いきいきと」の運営理念のもと、入居者・ご家族の思いに耳を傾け、その人らしさが発揮できるよう支援しています。職員は、法人内の研修や院外の研修に参加し、一人一人が学べる状況にあります。職員が楽しく生き活きと接する事で、入居者にも思いは伝わると感じています。地域の関わりも年々、密になり運営推進会議でも事例検討や地域からの情報など活発に活動しており、地域の行事に声をかけて頂き入居者と共に楽しみながら参加しています。入居者中心とした、支援が出来るよう、ケアの充実・質の向上・個別ケアに努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年を迎えたホームは、ゆとりある生活空間と入居者一人ひとりの思いに寄り添い、馴染みの関係性の中で個別の暮らしの継続(毎日の散歩を日課とする入居者等)と、入居者の残存機能を注視した役割のある生活が連鎖反応として生かされ、入居者同士の労いのある生活に繋げている。経年による高齢化(ほとんどの方が90歳以上)は否めないものの、“家庭的な雰囲気の中で ゆったりと楽しく いきいきと”の理念の実践が温かいホームを一層深めている。職員の定着率の高さや母体である病院に隣接という環境は、24時間の医療との密な連携とともに、家族の安心感や信頼感となり、職員のスキルアップ・サービスの確保の要因となっている。これまで培ってきた地域との関係も更に密接になっていることが、子ども会が開催する十五夜への参加等に出出し、認知症サポートセンターとして、今後も認知症ケア啓発への寄与が大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと楽しくいきいきと」の理念のもと職員は楽しく生き生き生活できるように努めている。	開設時からの理念の実践に向け、寄り添い・ささえ合う・看護介護の実践のもと、ホーム独自の目標として楽しく生き生きとした生活支援に向け、個別活動の充実を掲げている。入居者個々のレベルに応じた活動等具体化し、毎年評価及び進捗状況を精査しながら新たな目標等、志向を高くした姿勢に理念が深く浸透していることが表出している。98歳という高齢化した中でも編み物に取り組まれる姿に、楽しく今を生きておられることが確認され、職員の明るく寄り添う姿勢等一層温もりのあるホームとして形成されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、観音さん祭り・十五夜・文化祭など、参加し、地域交流出来ている。また、他の施設との交流も行っている。	毎日の散歩時の住民との歓談やホームから地域に出向き交流に取り組んでいる。子ども会や地域の様々な行事への参加、保育園との相互交流の他、入居者の得意とする縫物を生かし雑巾の寄付も継続している。病院に隣接し、民家は少ないものの病院受診時に立ち寄る住民もおられるが、日常的な交流には至っていないと認識されているが、中学校の職場体験や高校の実習の受け入れ、及び入居者の親類や友人等が頻繁に訪問されている。	住民のホームに対する思いは歌番組をDVDとして持参されること等に表れている。ホームはサポートセンターの拠点とした役割も担っており、職員の持つスキルの発揮として、大いに期待される。近隣住民が気軽に訪問できるホームとして更なる工夫に期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談の窓口として、サポートセンターを設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、困難事例や、経過事例を含め報告しアドバイスをもらったり、苦慮した事・喜びを感じたことなどを挙げて共有している。市の担当者・自治会長・民生員・ご家族より意見を頂き、サービスの向上に努めている。	行政・地域包括支援センター・自治会長・民生委員の他、家族には家族会の中で運営推進会議の意義等を説明しており輪番での参加により2ヶ月毎に開催。活動報告の他、困難事例や喜びのある事例をもとにした意見交換及び行政や地域包括等の情報の発信の場としても生かされている。水害や消防訓練に向けたアドバイス等もあり、サービスの向上に直結する有意義な会議である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者・包括支援センターの担当者の方と共に情報共有しながら、分からないことや、困ったことなど、お尋ねすると親身に対応してもらい、協働することが出来ている。	行政が推奨するサポートセンターとしての役割を担い、集団指導・実地指導をケアサービスに反映させている。行政・地域包括支援センターとの関係が築かれており、在宅生活困難事例の相談に応じたり、ホーム側も不明な点を相談しアドバイスを得る等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を通し、法人全体で身体拘束廃止に理解し、取り組んでいる。身体拘束必要時はご家族に説明、了解をえて同意書を頂いている。身体拘束解除に向け定期的なカンファレンスを重ね安全な暮らしを提供できるよう支援する。	身体拘束廃止に向けた指針を掲げ、基本的に拘束及び虐待はしないとしている。全体研修や身体拘束廃止委員会での事例検討等意識強化に努めている。言葉のチェックリストによるカンファレンスの開催、及び体動による転倒防止に向け家族との相談のもと4点柵を利用した事例もあるが、毎週カンファレンスを行い、低床ベッドと床にマットを敷くことで解消している。また、入居者個々の外出傾向の早めの察知や、帰宅願望に家族の勤務先に出かける等家族の思いにも寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会・研修を通し学び、職員一人ひとりの意識を高め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や包括支援センターが開催する研修会に参加したり、法人内でも学習することができ、理解したことを活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、運営規定及び重要事項説明書に添い、料金に関する説明等、丁寧に説明しご家族が不安・疑問を解消し、納得した上で契約を結んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に活動報告のお便りを発行している。ご家族の面会時には少しの時間でも近状を伝え、お話をしている。年に1回家族会を行い、その後、入居者・ご家族・施設長はじめ職員と食事をしながら交流をしており、ご家族からも好評である。	家族の訪問時に状況を説明しながら要望等を引き出している。ホームの情報は“ゆうゆう便り”により発信し、運営推進会議及び家族同士の交流の機会や悩みの発信源として生かされる家族会の中で何かあれば申し出てほしいことや、ここでの発言が難しい事案は個別に聞き取りしている。入居者との関係も築かれ、日常のかかわりの中での申し出に、実現可能な場合は随時対応し、時には家族に代弁し実現させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、グループホーム運営会議を施設長・法人の看護部長も出席し、毎月の報告事項や検討事項なども含めて職員が意見を出す場がある。	朝からの申し送り時や、施設長・看護部長参加のもと開催する運営会議により職員の意見や提案を聞き取りしている。勤務体制等会議による決定や、職員同士が日常のケアの中で困難事例等解決に向け随時の話し合いが行われている。主任を中心とした風通りの良い関係が築かれ、報・連・相を徹底し、主任による個人面談の他、職員の悩み等に随時相談に応じ、年2回の食事会の開催は職員のモチベーションとして生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は整っている。各自が学習する意欲をもって働いている。安心して働けるよう定期的に個人面談を行いながら、よりよい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は月2回程あり、参加できなかった者も必ず伝達講習にて研修の内容を理解している。グループホーム内の運営会議後に、認知症最前線等の中から抜粋し皆で学ぶ場を設けている。外部の研修にも参加し学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会の活動で、水俣・芦北のグループホーム・小規模多機能事業所の職員と研修会や交流会を通し良い刺激となっている。水俣市の地域密着型サービス部会があり、事例検討研修や職員交換研修など活発に活動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を取り巻く環境(人)を把握し、アセスメントを行い本人やご家族の思い・要望を取り入れている。入居前には自宅訪問し、家庭に近い環境が提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の支援が大切であることを説明し可能な限り協力を求め新しい環境に慣れられるようご家族と情報を密にし、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズに柔軟に対応できるように、他事業所に相談・アドバイスをもらったりとその人に合った、ケアの提供が出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人のできる事に着目し、職員は、共に生活する家族として調理・掃除など一緒に行う事で信頼関係も築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡相談を密にし、病院受診もご家族に付き添ってもらったり、職員と一緒に同行していただくなど、ご家族を巻き込みながら共に支える努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時代から行きつけの美容室に入居後も馴染みの関係を続けている。友人・知人の面会時はゆっくり過ごせるよう自室へ案内している。職員側からも、また来てください、お待ちしております。などの声かけをしている。	毎月請求書の中に入居者の手紙をしたためる等家族との関係が最重要であるとしている。友人・知人の訪問の他、毎週家族の帰省に合わせ自宅で過ごす方や、週毎に大勢の親類の訪問を受ける方、盆・正月の帰省、馴染みの美容院の継続等これまでの関係性を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立、もしくは自分本位になる入居者が生じないよう職員は入居者の話を傾聴し、トラブルになる前に職員は間に入り調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転居となっても、入居者と一緒に面会に行ったり、ご家族に対しても相談事があればいつでも対応することを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いやご家族の要望など、くみながらより良い環境で生活できるように職員はカンファレンスを重ね情報を共有している。	職員は入居者への寄り添いの中で、思いや帰宅願望に傾聴し、時には家族に思いを代言する等家族への働きかけもホームの責任であるとしている。担当制としていることは、個々の状況や意向の把握の他、気づき等に生かされ、カンファレンスにより本人本位になるよう話し合い、本人の思いや意向の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、自宅訪問をしたり、生活歴を聞きだし、その人をよく知る事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態把握に努め、その人らしさが発揮できるようにできる事は継続して支援している。本人の訴えや、要望があれば、出来る限り対応する事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアする中で困った事や、体調の変化が生じた時には、それに基づき職員間でカンファレンスを行い方向性を確認している。	日々の生活の中で、心身の状況変化・ニーズの変化等に随時カンファレンスを行うとともに、短期目標(3ヶ月)毎に実施状況や効果等を精査し、再評価やカンファレンスの必要性を見極めている。年1回は本人・家族・担当職員とケアマネジャーとで課題を検討しており、生活の場として個々のニーズに基づいたプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を通して個人の心身状況を把握し、新たなニーズを確認している。職員間の連絡は申し送りノートにて把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、ご家族のニーズに臨機応変に対応できるよう、出来る限りの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の参加や、裁縫が得意な方に雑巾を縫って近隣の保育園に寄付したり、楽しみながら地域とのかかわりが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望のかかりつけ医とし、ほとんどの入居者が法人内のクリニックをかかりつけ医としている。他科受診時にかかりつけ医に受診経過を報告している。	本人・家族の希望する医療機関を支援することとしているが、殆どの方が緊急時の対応が可能な法人のクリニックを受診している。他科受診は家族に依頼しているが、困難な場合は職員が支援し、受診結果は家族・ホームで共有している。職員は健康チェックを徹底し、食前の手洗いうがいの声かけや、外出から戻り自らがうがいされる等衛生管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調管理は泌尿クリニックの看護師と申し送りノートを活用し、連絡を密にして連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早く退院できるよう、ご家族・病院と状態を確認しながら職員も頻繁に面会し、本人の体調に合わせて退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化・終末期に対し、説明し、ご家族の意向を聞いている。同敷地内に、クリニック・病院が併設しているため体調の変化等あれば、その度に医師からご家族に話をされる。医師・看護師・ご家族・グループホーム職員で連携を図っている。	入居時に医療支援の必要やホームでの生活が困難になった場合を退所の基準として説明している。家族はギリギリまでホームで生活し、その後母体クリニックなど医療機関での対応を希望されている。心身の状態が変化した時点で、医師を交えて方針を決定する事としており、これまで看取り支援の事例はなく、家庭的な雰囲気の中で出来る最良の支援に取り組んでいる。	今後は重度化についての説明書や意思確認書を作成し、本人・家族の思いに添いながら最良の支援の継続に努めていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修の中で、消防者(救急救命士)に来てもらい、AEDの取り扱い・心肺蘇生法の指導を受けている。グループホームの職員は、ほとんどが、普通救命講習修証を持っている。緊急時に実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも災害時の対応など検討し自治会長が消防署務めだったこともありアドバイスをもらっている。また、連絡網に運営推進会議に出席される方も入れさせて頂き、協力体制をとっている。	法人クリニックと連携した避難訓練を年2回開催している。11月の訓練後は、職員の声小さかったことや安全への配慮不足等が指摘され、次回の訓練に活かすこととし、昨年度末には緊急招集訓練を実施している。緊急時持ち出し袋やヘルメットの準備と台風接近が予想される場合は3日分の食料を準備している。また、居室のコンセント埃もチェックを行うなど、職員の意識づけが図られている。	運営推進会議の中で災害対策について意見交換を行い、委員も連絡網の中に加わるなど協力を得ている。今後は、家族にも訓練時に参加を呼びかけることで、家族の安全対策への周知や安心に繋がっていくと思われ、検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の身体拘束廃止委員会の中で言葉の拘束チェックを定期的に行い、入居者に合わせた丁寧な言葉使いに努める。職員間でも注意し合える風土作りをしている。	入居者の呼称は、「呼ばれたい呼び方」を本人に聞き対応している。入居者を尊重した支援や言葉使いについて、身体拘束委員会による『言葉のチェックリスト』で振り返り、反省点は互いに声をかけながら改善に努めることとしている。今月の接遇目標として『挨拶・笑顔美人』を掲示し、意識強化としている。個人情報使用については家族と同意を交わし、職員の守秘義務についても周知徹底している。	入居者の居室に入る際は、本人が不在であっても必ずノックを徹底される事が望ましいと思われる。また、玄関に置かれた面会簿については、個別記入など検討される事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に、希望に応じ散歩・家事参加・外出支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを把握し、個別支援を取り入れながら、その人らしい暮らしの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し、ご家族の要望も取り入れながら身だしなみに気を配っている。敬老会などにイベント時にはお化粧をすると喜ばれるので、その人らしいおしゃれができるよう配慮して行きたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ね、献立に取り入れている。本人ができる事的能力を活かせるよう出来る範囲で職員と一緒に楽しみながら行っている。梅干作りや干し柿など昔ながらの保存食も入居者に教えてもらいながら行っている。	法人栄養士の作成した献立を参考にしながらも、入居者の希望、差し入れ食材を活用し家庭的な料理を提供している。食材は地域の鮮魚・精肉・青果店を利用し、刺身の提供やシナモン葉饅頭など手作りおやつ等入居者に好評の食事を支援している。また、そめん流しの外食や玄関先でお茶やお弁当を開くなど楽しい取り組みである。法人の教育委員会では、食事援助についての研修会を開催し、職員は見守りを行いながら一緒に食事している。	ゴボウのささがきやかぶの皮むき・薄切り・もやしの根切りなど入居者が手際よく食事作りに関わる姿が確認された。今後も入居者にできる食への関わりや、弾む会話での食事が継続される事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は毎食事・10時・15時に行い必要に応じて補給している。食事摂取にムラがある方へは好みの物を捕食として提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の手洗い・うがい、食後の口腔ケアの実施をしている。介助が必要な方には、職員が支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、入居前はオムツ使用だった方も布パンツに移行をおこなっている。成功例も多い。	排泄は自立したや時間的なパターンを把握しトイレ誘導により、日中は布下着やトイレでの排泄に努め、出来る範囲でコストにも配慮している。夜間のみポータブルトイレやリハビリパンツ等昼・夜で使い分け、支援方法も職員間で共有を図っている。入居者それぞれが使い慣れたトイレがあり、順番を気遣ったり、空き状況を伝える方等、入居者同士のチームワークや心遣いの場面が印象的であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤に頼らず、飲むヨーグルトや牛乳、さつまいもなどなるべく自然排便できるよう工夫している。職員側は排便の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は2日に1回の入浴を実施している。希望があればその度に対応している。たまには、温泉に出かけるなどの計画もしていきたい。	1日置きの入浴支援を基本としているが、入居者の希望や汚染時のシャワー浴などその都度対応している。浴室は採光も良く清潔に管理しており、気持ちの良い入浴を支援し、浴槽や移動チェアでの入浴など身体状況に応じて取り組みしている。また、法人PTの指導を受けながら、介護度の高い方にも安全な入浴が実施されている。	入居者の中には、テレビで温泉番組が流れると「行きたかなあ〜！」と話が出ることもあり、管理者は実行したいとの意向もあり、お湯処でもあり実現されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを知ることで、その人に合った睡眠をとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に通院し、処方された内服薬の経過・報告、必要に応じて相談し、適切な内服薬の処方に向かうよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、その人の好きな事、得意な事を取り入れられるよう楽しみある、生き活きた暮らしが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事参加や、季節に応じた花見や、パラ園・秋の行楽など出かけている。個別では、買い物・外食・散歩などその人に応じた支援を行っている。また、ご家族が遠方におられる方には、定期的な自宅へ行き、家の風通しをしたりしている。	桜やバラなどの花見学や野菜の苗植えなど季節に応じた外出が支援されている。職員と一緒に散歩やゴミ出しを日課とされる方や買い物、ふるさと訪問など個別支援の充実は、入居者の日常に楽しみと活気を与えている。近隣施設で開催されたケーキバイキングへの外出は、ご近所の施設としての交流にも繋がっている。また、観音さん祭や子ども会の十五夜会など夜間の地域イベントにも参加している。	家族の協力による正月や定期的な帰省、車椅子利用者の外出など様々な取り組みは聞き取りや広報誌などからも確認された。今後は家族へも外出の予定を伝えるなど協力を依頼することで、更に楽しみが広がっていくと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っている。一人一人の出納帳があり、ご家族の面会時に確認してもらっている。なかなかお金を自分で使う事が出来ない為、本人に代行して支援している。自分で出来る人は、買い物を楽しまれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて自由に電話を使用できている。また、毎月、遠方におられる家族に、入居者が手紙を書いておられ、家族も楽しみにされている。出来ない所は、職員側で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関には、季節の花々を植えており、季節を感じる事が出来る。共同生活の場であるリビングにはソファを置きゆっくりくつろげる空間を作っている。リビングから見える場所に家庭菜園や花を植えたり、入居者の目で楽しむ事にも工夫している。	木立の中にいるような雰囲気でも過ごせるホームは、リビングホールから季節の野菜が眺められる1階ユニット、出窓のプランターの花や野菜(入居者が米のとぎ汁をかけ管理)が目を楽しませてくれる2階のユニットが設けられている。リビングに集い洗濯物を手際よく畳んだり、自身の健康チェックをノートに記入される方、ソファでかぎ針編みを楽しまれる方など、いつもの時間を過ごす入居者の姿から居心地の良さを感じることができた。	両ユニットは間取りや作りは同じであるが、壁面や飾りなど職員が工夫しながら季節感のある空間に努めている。経年と共に物品も増えたり、傷んでいくことから、掲示物をはじめとした見直しも必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多いが、気の合う方のお部屋で談笑する姿もみられる。各個人が、思い思いに自由に生活できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や寝具等を取り入れている。ご家族の協力をえながら居心地のよい暮らしができるよう環境作りに配慮している。	居室にはこれまで使用していた家具や小物、布団等持ち込まれ、家族の手芸作品(手提げバックなど)や写真を置かれている方、誰が面会に来てくれたか自身でノートにつけられる方もおられる。また、自宅から持ち込んだ仏壇には、散歩中に摘んだお気に入りの木々(赤芽)や草花、ご仏飯を欠かすことなく備えられるなど、家族や本人の思いが詰まった居室である。	職員は日々の掃除や換気に努め、季節に応じた寝具など家族の面会時には必要な物品を依頼している。今後もホームと家族が協力し、本人にとって居心地のよい空間に取り組んでいきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて「できること」「わかること」を把握し、本人の力を出せるよう、声掛け・困った時の支援など安心・安全に生活できるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370500565		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	熊本県水俣市塩浜町2-19		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号
訪問調査日	平成27年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム周辺は、静かな環境のもと、季節の花々に囲まれています。母体が病院であり、急変時の対応も泌尿病院・泌尿クリニックと連携が取れています。「家庭的な雰囲気の中かで ゆったりと 楽しく いきいきと」の運営理念のもと、入居者・ご家族の思いに耳を傾け、その人らしさが発揮できるよう支援しています。職員は、法人内の研修や院外の研修に参加し、一人一人が学べる状況にあります。職員が楽しく生き活きと接する事で、入居者にも思いは伝わると感じています。地域の関わりも年々、密になり運営推進会議でも事例検討や地域からの情報など活発に活動しており、地域の行事に声をかけて頂き入居者と共に楽しみながら参加しています。入居者中心とした、支援が出来るよう、ケアの充実・質の向上・個別ケアに努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと楽しくいきいきと」の理念のもと職員は楽しく生き生き生活できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、観音さん祭り・十五夜・文化祭など、参加し、地域交流出来ている。また、他の施設との交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談の窓口として、サポートセンターを設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、困難事例や、経過事例を含め報告しアドバイスをもらったり、苦慮した事・喜びを感じたことなどを挙げて共有している。市の担当者・自治会長・民生員・ご家族より意見を頂き、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者・包括支援センターの担当者の方と共に情報共有しながら、分からない事や、困ったことなど、お尋ねすると親身に対応してもらい、協働することが出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を通し、法人全体で身体拘束廃止に理解し、取り組んでいる。身体拘束必要時はご家族に説明、了解をえて同意書を頂いている。身体拘束解除に向け定期的なカンファレンスを重ね安全な暮らしを提供できるよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会・研修を通し学び、職員一人ひとりの意識を高め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や包括支援センターが開催する研修会に参加したり、法人内でも学習することができ、理解したことを活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、運営規定及び重要事項説明書に添い、料金に関する説明等、丁寧に説明しご家族が不安・疑問を解消し、納得した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に活動報告のお便りを発行している。ご家族の面会時には少しの時間でも近状を伝え、お話をしている。年に1回家族会を行い、その後、入居者・ご家族・施設長はじめ職員と食事をしながら交流をしており、ご家族からも好評である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、グループホーム運営会議を施設長・法人の看護部長も出席し、毎月の報告事項や検討事項なども含めて職員が意見を出す場がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は整っている。各自が学習する意欲をもって働いている。安心して働けるよう定期的に個人面談を行いながら、よりよい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は月2回程あり、参加できなかった者も必ず伝達講習にて研修の内容を理解している。グループホーム内の運営会議後に、認知症最前線等の中から抜粋し皆で学ぶ場を設けている。外部の研修にも参加し学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会の活動で、水俣・芦北のグループホーム・小規模多機能事業所の職員と研修会や交流会を通し良い刺激となっている。水俣市の地域密着型サービス部会があり、事例検討研修や職員交換研修など活発に活動している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を取り巻く環境(人)を把握し、アセスメントを行い本人やご家族の思い・要望を取り入れている。入居前には自宅訪問し、家庭に近い環境が提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の支援が大切であることを説明し可能な限り協力を求め新しい環境に慣れられるようご家族と情報を密にし、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズに柔軟に対応できるように、他事業所に相談・アドバイスをもらったりその人に合った、ケアの提供が出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人のできる事に着目し、職員は、共に生活する家族として調理・掃除など一緒に行う事で信頼関係も築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡相談を密にし、病院受診もご家族に付き添ってもらったり、職員と一緒に同行していただくなど、ご家族を巻き込みながら共に支える努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時代から行きつけの美容室に入居後も馴染みの関係を続けている。友人・知人の面会時はゆっくり過ごせるよう自室へ案内している。職員側からも、また来てください、お待ちしております。などの声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立、もしくは自分本位になる入居者が生じないよう職員は入居者の話しを傾聴し、トラブルになる前に職員は間に入り調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転居となっても、入居者と一緒に面会に行ったり、ご家族に対しても相談事があればいつでも対応することを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いやご家族の要望など、くみながらより良い環境で生活できるように職員はカンファレンスを重ね情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、自宅訪問をしたり、生活歴を聞きだし、その人をよく知る事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態把握に努め、その人らしさが発揮できるようにできる事は継続して支援している。本人の訴えや、要望があれば、出来る限り対応する事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアする中で困った事や、体調の変化が生じた時には、それに基づき職員間でカンファレンスを行い方向性を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を通して個人の心身状況を把握し、新たなニーズを確認している。職員間の連絡は申し送りノートにて把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、ご家族のニーズに臨機応変に対応できるよう、出来る限りの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の参加や、裁縫が得意な方に雑巾を縫って近隣の保育園に寄付したり、楽しみながら地域とのかかわりが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望のかかりつけ医とし、ほとんどの入居者が法人内のクリニックをかかりつけ医としている。他科受診時もかかりつけ医に受診経過を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調管理は泌尿クリニックの看護師と申し送りノートを活用し、連絡を密にして連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早く退院できるよう、ご家族・病院と状態を確認しながら職員も頻りに面会し、本人の体調に合わせ退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化・終末期に対し、説明し、ご家族の意向を聞いている。同敷地内に、クリニック・病院が併設しているため体調の変化等あれば、その度に医師からご家族に話をされる。医師・看護師・ご家族・グループホーム職員で連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修の中で、消防署(救急救命士)に来てもらい、AEDの取り扱い・心肺蘇生法の指導を受けている。グループホームの職員は、ほとんどが、普通救命講習修証を持っている。緊急時に実践できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも災害時の対応など検討し自治会長が消防署務めだったこともありアドバイスをもらっている。また、連絡網に運営推進会議に出席される方も入れさせて頂き、協力体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の身体拘束廃止委員会の中で言葉の拘束チェックを定期的に行い、入居者に合わせた丁寧な言葉使いに努める。職員間でも注意し合える風土作りをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に、希望に応じ散歩・家事参加・外出支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを把握し、個別支援を取り入れながら、その人らしい暮らしの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し、ご家族の要望も取り入れながら身だしなみに気を配っている。敬老会などにイベント時にはお化粧をすると喜ばれるので、その人らしいおしゃれができるよう配慮して行きたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ね、献立に取り入れている。本人ができる事の能力を活かせるよう出来る範囲で職員と一緒に楽しみながら行っている。梅干作りや干し柿など昔ながらの保存食も入居者に教えてもらいながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は毎食事・10時・15時に行い必要に応じて補給している。食事摂取にムラがある方へは好みの物を捕食として提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の手洗いうがい、食後の口腔ケアの実施をしている。介助が必要な方には、職員が支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、入居前はオムツ使用だった方でも布パンツに移行をおこなっている。成功例も多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤に頼らず、飲むヨーグルトや牛乳、さつま芋などなるべく自然排便できるよう工夫している。職員側は排便の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は2日に1回の入浴を実施している。希望があればその度に対応している。たまには、温泉に出かけるなどの計画もしていきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを知ることで、その人に合った睡眠をとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に通院し、処方された内服薬の経過・報告、必要に応じて相談し、適切な内服薬の処方に向かうよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、その人の好きな事、得意な事を取り入れられるよう楽しみある、生き生きとした暮らしが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事参加や、季節に応じた花見や、バラ園・秋の行楽など出かけている。個別では、買い物・外食・散歩などその人に応じた支援を行っている。また、ご家族が遠方におられる方には、定期的に自宅へ行き、家の風通しをしたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っている。一人一人の出納帳があり、ご家族の面会時に確認してもらっている。なかなかお金を自分で使う事が出来ない為、本人に代行して支援している。自分で出来る人は、買い物を楽しまれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて自由に電話を使用できている。また、毎月、遠方におられる家族に、入居者が手紙を書いておられ、家族も楽しみにされている。出来ない所は、職員側で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関には、季節の花々を植えており、季節を感じる事が出来る。共同生活の場であるリビングにはソファを置きゆっくりくつろげる空間を作っている。リビングから見える場所に家庭菜園や花を植えたり、入居者の目で楽しむ事にも工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多いが、気の合う方のお部屋で談笑する姿もみられる。各個人が、思い思いに自由に生活できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や寝具等を取り入れている。ご家族の協力をえながら居心地のよい暮らしができるよう環境作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて「できること」「わかること」を把握し、本人の力を出せるよう、声掛け・困った時の支援など安心・安全に生活できるよう努めている。		